



環境モデル都市を行く



本コーナーでは環境ビジネスやエコ活動に取り組む企業や環境に関する技術、法律、補助金等を紹介し

今回訪れた豊光社（倉光宏・代表取締役社長）は、次世代照明「ソラナ」を製造販売する会社。今夏の節電対策として照明の転換を考える企業には選択肢の一つとして紹介したい。



企業名：(株)豊光社
所在地：小倉北区上到津2-7-30
環境情報：次世代照明の製造販売
対応者：倉光宏 代表取締役社長

ソラナはCCFL（冷陰極管）が光源で、従来からパソコンや液晶テレビのバックライトに使われている。CCFLの歴史は25年以上あり、これまでは一部品だった。単体として注目されるようになったのが、リーマンショック以降のパソコンの販売不振からで、部品だったCCFLを照明として実用化する動きが出てきた。もともとプリント基板のメーカーとして40年以上の実績がある同社が、実用照明として商品化を試みたのが一昨年10月。試行錯誤の末、昨年4月に東京で開かれた次世代照明が一堂に集まる展示会へ出展。話題のLEDが各所で展示される中、ソラナは圧倒的な低価格で会場にインパクトを与え、ブースは大勢の人で賑わった。予想を超える反応を得て、昨年8月製品化した。

ソラナの特長は、省エネによるCO₂排出量削減はもちろん、LEDよりも配光角度が広く明るいこと。蛍光灯と変わらない明るさにより、特に食品を扱う企業や室内照明として高い評価を得ている。寿命は40,000時間。1日10時間使用で10年以上メンテナンスが要らない計算だ。また、外装管が「ポリカーボネイト」でできており、落としても割れないのが特長。同社ホームページでは乗用車で外装管を踏む実験を動画で公開している。



同社ブースには大勢の人だかり（東京）

CCFLを実用照明として扱うメーカーは日本でも5社ほどで、九州では「豊光社」だけ。ソラナは北九州市のエコプレミアムにも選ばれ、昨今の節電への取り組みもあって、需要は激増している。同社は、当会議所と市が東日本復興のために立ち上げた「ものづくりの絆プロジェクト」にも参画。支援物資としてソラナ提供を申し出ており、復興への光を届けようとしている。

北九州

見聞録

当会議所は市内の出先機関のトップ（支店長など）を対象に各種イベントを企画し、異業種交流と北九州のイメージアップを目的とした「フランチリーダーの会」事業を実施しています。本コーナーは、そのフランチリーダーの会メンバーに赴任して感じた北九州の魅力などについて語っていただきます。（連載）

北九州に赴任してから間もなく2年が経とうとしています。今では地元の人以上に北九州にどっぷりつかって楽しんでいる気がしています。



ブルーウェーブイン小倉
総支配人 金口正弘さん

私がこの2年間で感じたことは「人情味が溢れる昭和の香りがする街」。人生の大半を生まれ育った広島で過ごしてきましたが、北九州という街や人と接してきて感じたのは、初めてお会いする人でも気軽に接していただき、直接顔を合わせ、言葉を交わすことを大切にしている心の温かさが風土としてあることで、感動しました。例えばお客様の所へ出向いた際に「わざわざお越しいただいて」という温かい言葉をかけていただく機会が非常に多いのです。私も北九州を身近に感じるためにできるだけ地元の業者さんに仕事でのつながりを持ち、会社対会社だけでなく、人対人のお付き合いを大切にしようと思っています。

仕事柄と言いつつ実は個人的なのかもしれませんが、地元の食文化にも大変興味を持ち、ホテルのプ

ランで小倉焼きうどんや門司港焼きカレーのお店とコラボして、北九州ブランドのPRに努めています。中でも小倉ロールケーキ研究会にはネーミングからひかれて、早速市内のケーキ屋さん巡りをしました。北九州に来て初めて知った「ゴボ天うどん」や「戸畑ちゃんぽん」など食べ歩きをして思ったことは北九州の食は立派な観光資源ということです。

自宅の窓から見える真っ赤な若戸大橋や工場萌えで有名になった新日鐵八幡製鐵所の夜景は実に素晴らしい景観です。もの思いにふける時間が持てる門司港レトロ地区や宇宙空間を楽しめるスペースワールドなど素敵な観光地が盛りだくさんです。こんな昭和と平成が入り交じった街「北九州」が好きになりました。これからはもっと多くの人に知っていただけるように頑張っていきたいと思っています。



ブルーウェーブイン小倉
（小倉北区浅野2-14-65）

オリックスグループ ブルーウェーブ株式会社（本社・東京都港区）
設立1991年（平成3年）。オリックスグループの所有するビジネスホテルやリゾートホテルなどを運営。小倉店としては金口総支配人の下、近い将来の地域1番店を目指してサービス向上に奮闘中。